

## 金融資本概念の再検討にむけての覚書

杉 崎 京 太

1. はじめに
2. ドイツ型金融資本をめぐる
3. 馬場宏二と加藤栄一の金融資本論
4. イギリス型金融資本をめぐる
5. グローバル化と金融資本
6. まとめ

### 1. はじめに

金融資本についての議論が行われなくなって久しい。金融危機について論じられはするが、資本の概念としての「金融資本」という問題については閑却されてきた。そのようななかで、石崎昭彦の近著、『アメリカ新金融資本主義の成立と危機』は、あらためて金融資本主義を問題にしている。「金融資本市場が経済への影響力を強め、資本主義のエンジンになったことによるものであった。アメリカ経済は金融資本市場のメカニズムによって組織されることになった」(p141)として、「新しい金融資本主義」という問題を提起している。そこでは、「アメリカにおいて20世紀初頭に成立した金融資本主義と区別するため」(はしがき)「黄金時代の資本主義は規制され組織された資本主義であった」(p.6)が、「株主重視の資本主義に転換した」(p.9)新しい資本主義を論じる必要があるというのである。しかし、新しい金融資本主義の土台となる「金融資本」については必ずしも内容が提示されているわけではない。あらためて「金融資本」とは何かを問う必要がある。

### 2. ドイツ型金融資本をめぐる

金融資本概念の基礎に置かれるべきは、ヒルファディングの『金融資本論』である。ヒルファ

ディングの金融資本論は、産業における独占の形成と銀行の証券金融への業務拡大に伴う合同運動への関与に焦点をあて、さらに帝国主義的対外政策への関与として、保護政策・資本輸出・ダンピングについて取り上げている。極めて組織的な、銀行と産業独占の結合のあり方を分析したことで、重要な意味をもつことになった。

このヒルファディングの分析をもとに、段階論における「型」の析出に据えたのが、宇野弘蔵であった。『経済政策論』第三編「帝国主義」では、第一節「資本集積の増大と固定資本の巨大化」を、第二節「株式会社の機能」では株式会社について扱い、ドイツ型の金融資本蓄積をして、帝国主義段階の典型としたのであった。これについて、馬場宏二は、「再生産過程を、離れて、金融的に支配する。これが金融資本についての形態的規定の軸心である。ただこの規定は、株式会社を説く文脈のなかにあり、しかも、直後に、金融資本は単に支配機構の形式として理解されてはならないとの断りが置かれているので、はなはだ取出しにくいのである。」(馬場宏二、1986、p.91)としたうえで、第三節の「金融資本の蓄積様式」については、「産業資本とは異なって、不断に資本蓄積を高度化させ、過剰人口を作り出しつつ同時に横への拡大も行う面」と、「生産方法改善の抑制や独占の作用で停滞になる面の二重性」をもち、それによって景気循環の周期性は攪乱され、好況要因を非自発的にする」(馬場宏二、1986、p.91)として、景気循環の変質の重要性を指摘している。

戸原四郎の金融資本論は、ドイツにおける金融資本形成を丁寧に実証した。(戸原四郎、1960)これに対して、岩田弘は、世界資本主義の枠組みに金融資本論を位置づけることを提起した。(岩田弘、1964)両者の方法的違いは、金融資本にととまらず資本主義の世界性と一国性の関連をどのよ

うに説くのかという問題であった。

帝国主義段階の金融資本的蓄積様式の国際化の問題は、戦間期には重要な問題となる。これについては、加藤栄一『ワイマール体制の経済構造』(1973)、戸原四郎『ドイツ資本主義』(2006)、塚本健『ナチス経済』(1964)、工藤章『現代ドイツ化学企業史』(1999)などの研究がある。

### 3. 馬場宏二と加藤栄一の金融資本論

馬場宏二は金融資本蓄積と過剰富裕化を扱った最初の研究者である。これに対して、加藤栄一は、福祉国家と金融資本の関係を論じ、国家独占資本主義と金融資本的蓄積様式について検討を試みた。

筆者は、「埋め込み」をめぐるボラニの提起した問題を若干検討したが、金融資本概念の欠落が、分析に限界を与えていることを指摘した。

自立的調整市場の埋め込みとしては、金本位制度のもつ自律的調整機能の停止がまず挙げられよう。「擬制的商品」としてボラニが提起した貨幣、土地、労働力のいずれもが、戦間期において、自由放任の市場原理に委ねておくことができなかったことの指摘は正しい。しかし、具体的に見てみると、その位相と相互連関については、さらに検討が必要である。ここでは論点を若干指摘しておく。

まず労働力は、本来的に市場で自由放任の取引に委ねることには無理がある。したがって長い闘争の歴史を経て、国家が労資関係に介入することになったが、第一次世界大戦は、資本蓄積過程における労働力商品の問題だけでなく、国家による兵士としての動員を契機に、銃後の家族の存在をも含めて、労働者をたんなる労働力としてではなく、国家を担う国民として捉えざるをえないという問題を浮上させることになった。「労働力商品の国民化」(杉崎)という概念の導入は、第二次世界大戦時のベヴァリッジ計画以前の、第一次世界大戦期の労資関係の変化を、加藤栄一の「同権化」や中西洋の「戦時労資関係論」よりも、生活過程・生命の再生産過程への国家の関与としてとらえるべきであるという観点にたつものである。この点をふまえることで、労働力は生産過程の側の存在としてだけでなく、生活過程を通じて購買力として存在する意味も明らかになる。労働力商品としての存在を、コストとしてみれば労賃切り下げが

課題となり、賃金をめぐる労資間闘争のみに焦点があたることになる。しかし、労働力を購買力とみなすことで、国内市場の重要な構成要素に転化し、賃金切り下げに多大なコストをかけるよりも、マイルドなインフレーションのもとで「貨幣錯覚」を生じさせて実質賃金を切り下げたり、さらには賃金上昇による購買力拡張要因として、政策的操作に対象化することが可能になる。これがケインズの賃金下方硬直化に対する解答にほかならない。政労使によるコーポラティズムの賃金決定は、国家が政策対象として労働問題を組み込むことを意味するだけでなく、労働組合による賃金決定への関与により、新たな交渉体系が国家内に形成されることになり、資本の世界性と国家の矛盾を生み出すことにつながる。

第二に擬制的商品としての土地は、需要供給関係における硬直性の問題だけでなく、所有権と階級・利子生活者問題、農業問題という多様な問題連関をもつ。農業問題は、食糧価格を通じて賃金問題の基底をなす。金本位制度のもとで、デフレ圧力が強まる場合は、労賃切り下げ圧力は食糧価格の切り下げ圧力に連なる。交渉力の弱い農業部門に価格切り下げ圧力が加重され、それが農業者の所得切り下げにつながり、農業危機が発生する要因になる。海外から食糧輸入をする場合は、デフレの賃金切り下げ圧力は、海外からの食糧輸入コストの切り下げ圧力として働き、そのことが世界経済の周辺部農業諸国への中心部からの負担の転嫁として作用する。他方で、戦間期は、戦時中の食糧輸入途絶の可能性にたいして食糧自給も一部拡大し、第一次世界大戦後は、国内自給基盤として保護対象になった。総体的に高価な食糧の保護は、賃金の下方硬直化に対する農業面からの支持機構となりうる。

このように土地と農業問題は密接に連関しており、食糧コストの問題が労賃の基底部分を形成する。さらに、農民の所得を保護することで、国内需要の重要な構成部分とすることが可能になる。したがって、農業問題は自律的調整市場に委ねず、国家的な政策対象とすべきとする考えも生じることになる。

第三に、「擬制的商品」としての貨幣は、本来、法貨として通用する貨幣の供給において、国家の関与を必要としており、自律的調整市場のもので商品として存在するわけではない。ところが、金本位制度のもとでは、金は世界貨幣として、ゲー

ムのルールに則り、自律的調整市場において取引されるとみなされてきた。実際には、通貨システムにおける自律性自体、過大に評価はできない。しかし、世界恐慌により再建金本位制度が崩壊し、ブロック化が進んで通貨の交換性が不安定になると、あらためて交換性の回復が求められることになった。その場合、通貨の交換性の回復と自律的調整市場の復活は同義ではない。通貨の交換性の回復は、国際商取引の決済手段を確保し、資本移動の世界性を維持するうえで基本的な必要条件である。しかし、通貨の交換性が回復し、自律的調整市場に委ねられれば、為替レートが変動し、通貨をめぐる闘争が激化する。これは各国の国内条件が優先されるため、資本の世界性を制限しても、各国の政策的自主性が優先される枠組みが、国家独占資本主義のもとで、ケインズ政策として導入された。その意味で、金本位制度から管理通貨制度への移行が、資本の世界性を制約してでも、国家による経済管理を優先するシステムとして、金本位制度の崩壊後に現出したのは必然である。ファシズムからニューディール型に至るまで、多様な国家管理資本主義が族生し、そのなかでイギリスとアメリカが生き残り、イギリスの資産をアメリカが継承する世界システムとしてブレトンウッズ体制が成立したのである。

ブレトンウッズ体制と各国の国家独占資本主義体制が、「自律的調整市場の埋め込み」を通じて形成されたと言う議論は、感覚的に理解ししやすいが、上述のように、細部には多くの問題が含まれ、必ずしも整合的ではない。イギリス中心の自律的市場の世界的メカニズムが、世界的編成機能を失い、アメリカの国際管理型システムに移行する根拠が問われなければならない。

このような議論において、イギリスの問題、特に後に述べるイギリスの「世界市場型資本蓄積」と「制度設定者のレント」をめぐる闘争の問題が、十分に検討されてこなかったことが明らかになる。

#### 4. イギリス型金融資本をめぐる

さて、イギリス型金融資本をめぐる問題はこれまで十分に検討されてきたとは言いがたい。入江節次郎のイギリス型金融資本研究（1982）と生川栄治の金融資本論（1956）が精緻な分析を行ってきたが、まだその構造があきらかになったとはい

えず、西村閑也の精緻なロンドン金融市場分析（1980）との関連づけも不十分である。

馬場宏二のコメントを引用すれば、「ドイツに比して、典型的な産業資本が確立したイギリスでの金融資本への転化が困難だったという、その限りでは不均等発展の事実在即した指摘はあるが、そこは節全体からいえばむしろ補足的な部分である」（馬場宏二、1986, p.91）ということになる。

これに対して、佐美光彦の金融資本論は、『国際通貨体制』（1976）の中で、「ロンドンに特有の割引市場は、一般の金融機関から最も短期の資金を借入れ、同時にそれを最も優良な手形に投資するというきわめて流動的な市場であった」（p.95）として、ロンドン割引市場の主要な機能として、国内外の金融機関の余剰資金の運用をたすけるだけでなく、全金融市場の変動をバランスする緩衝地帯としての機能を果たし、さらにイングランド銀行が最後の貸し手として存在することを指摘している。

さらに、イギリス中心の国際金融市場において、ドイツのマルク建て資本輸出の制約<sup>j</sup>についても述べている。（同上、p.232）さらに、W.A. ブラウンのいう、「国際収支に対する表層的調整力」と「国際収支に対する基礎的調整力」を引用して、定義しなおしたうえで、ロンドン金融市場の調整能力について長短資本移動を調整するだけでなく、基礎的な経常収支の変動をも調整する機能を有したとするのである。佐美論文は、その次の文で、ロンドン市場が「世界的な景気循環を統一的に媒介する中心的地位にあった」（同上、p.316）とする、中心的地位にあったことはともかく、「統一的に媒介」しえたかという点については、別途検討が必要であるが、ロンドン市場をめぐる精緻な分析を通じて、第一次世界大戦前の中心的性格を実証した点に意義がある。われわれは、中心的性格を獲得しえた理由として、「制度設定者のレント」を位置づけようというのである。

以上のように、国際金融資本市場における金融機関のあり方は歴史的にも絶えず変化しているが、特に近年のグローバル化のもので金融改革により、2007-08年国際金融危機に至る時期には、金融機関の巨大化が注目されるようになってきた。

本稿の論点は、従来のドイツ型金融資本に対して、明示的に「金融資本」としての定義付けがなされてこなかった、イギリスの金融資本について、



仮説的ではあるが、「世界市場型金融資本」として定義しようとするにある。

上述のように、ドイツ型金融資本は、金融機関と産業の密接な関係を基礎にするものであったが、イギリスにおける金融機関と産業との関係には、そうした強固な関係性を析出することが難しい。これは、銀行と国内企業の関係でも、閉鎖的で「内部化された」関係よりも、公開された市場における取引が可視化されてきたことによる。まして、世界市場を対象とするロンドン金融・資本市場においては、特定の不可視な関係が存在するにせよ、むしろ多様な関係性の取引が公開されることにより、市場規模を拡大し、そのことにより市場を設定した「制度設定者のレント」が増加するメリットがあったと考えることができる。われわれはこれを「世界市場型」金融資本蓄積様式として、いわゆるドイツ型の「国家内型」金融資本蓄積様式と区別しようとするのである。

「制度設定者のレント」は市場制度・非市場的制度の双方において発生するが、従来、市場におけるレントは完全競争のもとでは発生しないとして、制度設定者に与えられるレントの所在についてまったくと言ってよいほど問題にされてこなかった。筆者は、市場という「制度設定者」に与えられるレントの所在を可視化することにより市場経済についての理解を深めることができることを論じてきた。

「市場型資本蓄積様式」の特徴は、市場を設定した「制度設定者」にレントとしての手数料を支払い、市場に参加した産業資本や商業資本は、市場取引を媒介しつつ資本蓄積を行うという点にあり、一般的な資本蓄積様式といってよい。従来の議論との違いは、市場制度の設定者の存在を明示した点にある。このような一般的な資本蓄積様式における市場の機能と市場制度「設定者のレント」の問題についての議論は、別の場に譲るとして、ここでは、ドイツ型の産業資本蓄積と一体化した金融資本蓄積様式に対して、「市場型」金融資本蓄積様式は、国境を越えた「世界市場型」と一国内を中心とする「国家内型」の二重性をもつことを指摘するにとどめよう。

そもそも「世界市場型」金融資本蓄積様式が形成されうる条件は極めて限られている。まず金融・資本市場が世界的拡張性をもつには、貿易信用や投資のための資金需要が集中するネットワークが必要であり、そのための生産力基盤や信用力

基盤が必要だからで、歴史的には、たとえば、ロンドンやパリ、ニューヨークのような国際都市に形成されてきた。多様な金融商品を売買する金融業者は誌度設定者にレントとして手数料を支払い、取引を行う。市場を設定した制度設定者にとって、市場の拡張がレントの量的拡大を保障する源泉であるが、市場のもつ情報力と資金調達力に向かって多くの資金が流入することになるし、制度設定者がプレイヤーになることもないわけではない。個々の金融業者の規模は小さくとも、市場のネットワークを通じて投資家の資金を動員し流動化する機能を果たすのが、この市場型金融資本蓄積の特徴である。この場合、「制度設定者のレント」は直接的な手数料にとどまるものではない。情報の集中、参入者制限、取引様式の設定、通貨の決定等により、間接的なレントも獲得できる。残念ながら、このような「制度設定者のレント」は、直接的な手数料収入にせよ、間接的なものにせよ、透明性を欠き、量的に確定することはできない。またそれゆえに「市場設定者のレント」(the Creator's Rent)は閑却されてきたと言ってよい。

しかし、1980年代以後の自由主義改革により、様々な市場が自由に設定できるようになると、「市場設定者のレント」の存在も次第に明らかになってきた。その意味するところは、市場はけっして特定の所与の制度として存在するだけでなく、自ら設立し運営することが可能な点である。勿論、その市場に拡張性があった場合ではあるが、制度として設定されたあとも、拡大・縮小、多様化のという運動を繰り返している。市場の参加者は絶えず競争にさらされているが、その自由放任の世界には、市場設定の自由もあれば、市場を設定し「設定者のレント」を獲得し、それを他者と共有する自由もまた存在することが明らかになってきたのである。

このように市場制度の「設定者のレント」の問題は、多様な広がりをもつものであるが、本稿で取り上げている金融資本蓄積様式の議論においては、従来の組織的なドイツ型金融資本蓄積様式に対して、イギリスのように、これまで金融資本としての性格を確定しえてこなかった点について、「市場型金融資本蓄積様式」として対置することが可能になる。なぜならば、「市場型金融資本蓄積様式」は、個別資本の規模の大小よりも、市場そのものの拡張性、すなわち「市場創出傾向」に焦点をあてた概念であり、支配ではなく関係性と拡

張性にその特徴を見出すことで、個別資本の小規模性の問題や、資金の回転を早める短期信用重視の性格などの点の解明を可能にする。また、基軸通貨国に特徴的な、世界市場創出と国内市場創出という二重性の問題についても考察の糸口をあたえることになるからである。勿論、これらは実証とともに展開されるべきものであるので、ここでは、概念設定における可能性を提示することにとどめたい。

本稿では、金融資本蓄積様式を、貸付資本と産業資本の市場を媒介とした結合の諸形態と考える。ドイツ型は、「内部市場型」というべきものである。それは後発ドイツにおいて保護関税を導入し、カルテル形成を積極的に推進する国家的政策のもとで、銀行と産業の間に生じた密接な関係をつうじて形成されたものであり、固定資本投資の巨大化がもたらした過剰資本を処理するためのシステムであった。これに対して、イギリスでは、「市場型」のまま推移した。自由放任主義の延長線上のもとで、対外政策としては自由貿易主義が主流であり、対内政策としてもドイツのような国内における独占形成を推進する政策がとられたわけではなく、銀行と産業の間に強固な結合は形成されなかった。このことが、従来の議論において、イギリスにおける金融資本蓄積が明確な規程を欠く原因となってきた。本稿が「世界市場型金融資本蓄積」と「国家内型金融資本蓄積」の二重の枠組みを掲定したのは、それがまさにイギリス資本主義の実態であり、そのことにより従来のドイツ型の意味もより鮮明になると考えるからである。

前者は、世界市場創出型の自由貿易・自由投資を推進する金融資本であるのに対して、後者は、国内市場の確保のために保護関税と産業政策を推進する金融資本である。後発国ドイツの金融資本は、この「国家内型」として形成されることで、帝国主義段階の典型的な構造を生みだしたわけだが、イギリスにおいても、このような「国家内型金融資本蓄積」が形成されなかったわけではない。第一次大戦前のイギリスでも銀行合同運動が進展していたし、産業保護を求める関税改革運動が進められてきていたことも周知の事実である。自由主義の延長線上にあったイギリスでは、「制度設定者のレント」をめぐる闘争が、様々な局面において行われていたが、金融資本蓄積をめぐるのは、世界市場における金融ヘゲモニーをめぐる闘争と同時に、イギリス国内における金融・資本市場を

つうじて、イギリス帝国の利益を守るのか、あるいは国内産業の保護と発展をつうじて帝国を強化するののかという対立が存在していた。これらの詳細な分析はここでは行わないが、この二重性が、実は、国家・国際商業・世界市場の三層をつうじて世界システムを考察しようとした、マルクスの後半プランと関連する。

「世界市場型」金融資本蓄積様式は、国際的な金融・資本市場で事業活動を行う金融機関に、市場という場を設定して「制度設定者のレント」を得るとともに、みずからもプレイヤーとなって活動するコア・グループを中心に形成される、市場を媒介とするネットワーク型の連関によって構成される資本蓄積様式で、その特徴として次のような点をあげることができる。

第一に、「世界貨幣」を媒介とする市場を通じて、世界市場の絶えざる拡大を行う点にある。個別の金融機関のネットワークと支配関係も重要ではあるが、個別の関係性は市場内で変化せざるをえず、むしろ市場をネットワーク状に組織化し、世界市場を構成する点に特徴がある。この「世界市場型」金融資本蓄積様式は、世界貨幣的な通貨をもつ国に形成された国際的な金融・資本市場において形成される。そのような国際的な金融・資本市場は、世界貨幣と国家貨幣を同一化しうる限られた国家内に形成され、高等金融（ハイ・ファイナンス）の領域を司るものといっていよい。

第二に、市場を設定したコア・グループは、規模において中小規模ではあったとしても、市場を設定し、ネットワーク状に市場を創出し拡大することで、「制度設定者のレント」を共有し増大させることができる。

市場設定における「制度設定者のレント」の基本的特質は、市場の流動性を活性化して手数料収入を拡大することにあって、市場の自由と拡大性が重要であり、個別の支配関係の形成を目的としているわけではなく、市場関係をとおして形成されたとしても、それは副次的産物とみなすべきものである。むしろ「市場型」の特徴は、その拡張性にあり、多様な市場を集積することで情報の集中をはかり、それを通じて市場取引の拡大による規模の利益を追求するところにその特質がある。このことにより、あとからの参入者にも参入利益を保障し、そのことでさらに市場規模を拡張できるからである。結果的には、こうした自由な拡張性が、コアとなるグループの「制度設定者のレント」

の所在を不可視化することにもつながるのである。

このように考えると、「国家内型金融資本蓄積」において明確に看取することができた巨大性の不在が、イギリス型の析出を妨げてきた理由も明らかであろう。市場設定者はコア・グループとしてクラブ的に情報交換を行い、世界市場の拡大をネットワーク的に行うがゆえに、ドイツ型のような特徴づけが困難であったのである。

さて、このような「世界市場型」と「国家内型」の金融資本蓄積を類型化することは、資本の世界性と国家の間にある矛盾の解明にも役立つに違いない。

## 5. グローバル化と金融資本

マンデルのトリレンマは、マクロ政策選択上の問題として捉えられているが、それに対して、「資本の世界性」と「国家の自律性」との闘争を調整する局面としての為替制度があり、それは資本環節と貿易環節により他の経済と結節している。中心国は、過剰資本の蓄積の処理機構として資本の世界的流動性を可能にする制度設定を必要とする。それが金本位制度であり、その機能不全の結果として世界恐慌が発生し1930年代に長期不況が続くと、「通貨の交換性」を回復し、資本移動の流動性を引き上げるための制度構築を迫られた。

このような世界経済の構造的連関の総体性を視野に収めることにより、マクロ政策における政策的困難さが、世界システムの構造的連関の中に置かれている問題として明らかになるのである。(杉崎、2007)

こうした三層における「制度設定者のレント」をめぐる闘争の構造的連関を明らかにすることにより、大内力の「国家独占資本主義」の意味も明らかになる。国家独占資本主義は、「資本の世界性」と「国家」の矛盾のなかから形成されたシステムであり、その構造的調整を行う世界的制度として、ブレトンウッズ体制が構築されたのである。国家独占資本主義は、「労働力商品の国民化」(杉崎)、あるいは加藤栄一の「同権化」を根底に置くことで、資本蓄積を制約するシステムである。国内保護を優先することで、貿易、為替管理が行われ、資本移動が規制される。逆に、アメリカの過剰資本処理機構として、国際機関を通じて資本供給が行われ、自由な資本移動を制限することで、この

国家独占資本主義は成立する。なぜ国家独占資本なのか。国家と独占資本、またそれと連携する労働組合との提携関係において形成されているからにはかならない。イギリスのように、独占が自律的に形成できなかった国では、国家が政策的に介入し、独占形成を支援することで、国際競争力の保持を行う必要があった。その意味で、国家独占資本主義は、資本の世界性と衝突することにもなる。他方で、世界システムは、第二次世界大戦後の復興過程における資本賃労働の対立を、各国内部で緩和・調整するシステムとして、国家独占資本主義を発展させた。さらに、中心部における国家独占資本主義的枠組みは、独立した旧植民地諸国にも国家資本主義としての枠組みを設定し、アメリカ中心の中心周辺体制に配置することが可能になった。

さて、国家独占資本主義は、戦争と恐慌の中から生まれ、階級対立を緩和する制度として構築されたが、中心部の富裕化と周辺部の貧困化を並行して構成し、スタグフレーションにより瓦解した。資本の世界性を保障するための「制度の同質性」を求める運動として、自由化とグローバル化が進められ、為替の安定が放棄されることになった。「国家は無力化した」との言説構築が試みられた時期もあったが、むしろ国家の重要性は重くなり、資本の世界性との間で矛盾が深まっているのが現状である。二つの世界大戦を通じて、資本蓄積に対して強力な介入を行った国家の存在が、資本の世界性を規制する時代が生まれた。しかし、資本の世界的システムは、国家を構造的に組み込むことで、そのシステムを再生した。それが新自由主義の時代である。

## 6. まとめ

国家内存在としての金融資本論と、その延長線上の国際金融資本論が説かれる必要がある。資本の世界性と国家の重層性における矛盾と世界市場型金融資本蓄積と国家内型金融資本蓄積の融合としてのグローバル化の問題も解かれるに違いない。

その際、イギリス型の金融資本の分析が重要になる。本稿では、イギリス型をドイツ型に対比し、従来定式化できてこなかったことに対して、独自の見解を提示した。勿論、イギリスに関する分析が遅れていたわけではない。それにもかかわらず「イギリス型」を定式化できなかったのは、まさに



その「市場性」にあった。独占の形成、銀行の長期信用、株式会社と証券市場、国家の介入といった点からみると、第一次世界大戦前のイギリスでは、ドイツ型金融資本がもつ特徴のひとつひとつが、はなはだ不完全なものであったり、あるいはあてはまらないため、型を析出することができなかったのだが、それは、イギリスにおける資本蓄積構造が重層性を備えていたためといえる。

そのことを明らかにするための分析道具として、まず「制度設定者のレント」という概念を導入した。これ自体はあらゆる制度設定について言及しうる概念装置であるが、従来、レントなる概念を排除してきた完全市場においても、その市場設定においてレントが発生しているととらえ、特に初期設定者が獲得する部分を「制度設定者のレント」としたのである。この「制度設定者のレント」は市場を設定するときに生じるが、とくにロンドン国際金融・資本市場のような国際市場においては、その不可視性を含めて独自の意味をもつものとしてある。その場合、ロンドン国際金融・資本市場のプレイヤーは中小規模の金融業者であり。市場取引を媒介することが主であって、産業と接合したり、そこで支配関係を結ぶわけではない。しかし、国内外の過剰資本を短期資金として回転させる市場や、長期資本の貸付を行う市場などを多角的に運営することで、過剰資本処理を円滑に行うだけでなく、本来の貿易信用の手形決済の中心地機能により世界各国の輸出入の拡大に寄与し、そのことで世界市場を創出・拡大する機能を有している。資本移動の自由性を市場で媒介する機能は、市場の拡大を通じて迂回的に産業資本の資本蓄積に資することにもなるが、まさにそのことにより佐美光彦が指摘したように、景気循環の波を世界的に波及させる機能ももつのであって、世界経済の中心国において形成される特有の機能としてある。

ロンドンの国際金融・資本市場は、イギリスが国際金本位制度の中心国として存在する時期に形成された資本蓄積構造の核心をなすものであり、本稿ではそれを「世界市場型金融資本蓄積」としたのである。他方で、このことはイギリス国内にドイツ型金融資本の枠組みが全く形成されなかったことを意味するものではない。「世界市場型金融資本蓄積」の圧倒的な優位のもとで、関税による市場設定もできない国内産業の独特の性格が、過剰資本処理機構としての「国家内型金融資本蓄

積」の発展を阻害したのであって、戦争によって国家の介入が強まれば、「国家内型金融資本蓄積」もその姿をみせることになった。

このような構造を明らかにするうえで、われわれはマルクスの後半プランのもつ構造的な重層性に着目し、マンデルのトリレンマ論のなかにある「資本の世界性」と「国家内金融政策」の矛盾と関連付けることで、戦間期における資本蓄積の「大転換」の意味を明らかにしようとしているのである。この「三層」をわれわれは「GCES構造」(Global Capital, Exchanges, States Structure)とするが、本稿の、「世界市場型金融資本蓄積」と「国家内型金融資本蓄積」の重層的関係と、そこに存する矛盾こそ、「大転換」における国家独占資本主義への移行と、「埋め込み」が図られる理由ともなるのである。このことはさらに別の場で論じる必要があるであろう。

#### 参考文献

- 青木昌彦、1995、『経済システムの進化と多元性—比較制度分析序説—』東洋経済新報社。
- 青木昌彦 / 奥野正寛編、1996、『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会。
- 生川栄治、1956、『イギリス金融資本の成立』有斐閣。
- 石崎昭彦、1990、『日米経済の逆転』東京大学出版会。
- 石崎昭彦、2014、『アメリカ新金融資本主義の成立と危機』岩波書店。
- 伊藤誠、1973、『信用と恐慌』東京大学出版会。
- 伊藤誠、2006、『幻滅の資本主義』大月書店。
- 入江節次郎、1982、『イギリス資本輸出史研究』新評論。
- 岩田弘、1964、『世界資本主義』未来社。
- 内田勝敏、1976、『国際通貨ポンドの研究』東洋経済新報社。
- 大内力、1978、『信用と銀行資本』東京大学出版会。
- 大内力、1970、『国家独占資本主義』東京大学出版会。
- 大内力、1983、『国家独占資本主義・破綻の構造』お茶の水書房。
- 大内力、1991、『世界経済論』東京大学出版会。
- 加藤栄一、1973、『ワイマル体制の経済構造』東京大学出版会。
- 加藤栄一、1979、『組織資本主義論と現代資本主義論』『経済評論』1979年7月号。
- 加藤栄一、2006、『現代資本主義と福祉国家』ミネルヴァ書房。
- 河合正弘、1994、『国際金融論』東京大学出版会。
- 工藤章、1999、『20世紀ドイツ資本主義』東京大学出版会。
- 工藤章、1999、『現代ドイツ化学企業史』ミネルヴァ書房。
- 呉天降、1971、『アメリカ金融資本成立史』有斐閣。
- 小宮隆太郎、1994、『貿易黒字・赤字の経済学』東洋経

済新報社。

柴垣和夫、1965、『日本金融資本分析』東京大学出版会。  
杉崎京太、1996、『鉄鋼業の盛衰』、湯沢威編『イギリス経済史』有斐閣。

杉崎京太、1998、1999、2000、2001、2002、2003、2004、2005、2006-c「研究ノート グローバリゼーションの今日的意味をめぐって (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)」津田塾大学『国際研究所報』第 33、34、35、36、37、38、39、40、41 号。

杉崎京太、2006-a「欧州統合下の FDI の展開——「神聖ならざる三位一体」から「歪んだ四面体」の溶解へ——」津田塾大学『国際関係学研究』第 32 号。

杉崎京太、2006-b「研究ノート「グローバリゼーション」と欧州統合の現段階——市場の流動化と社会的規制をめぐって——」津田塾大学国際研究所『総合研究』第 4 号。

関下稔編、1989、『現代金融資本の諸理論』同文館出版。

佐美光彦、1976、『国際通貨体制：ポンド体制の展開と崩壊』東京大学出版会。

佐美光彦、1994、『世界大恐慌』御茶ノ水書房。

立石剛、2000、『米国経済再生と通商政策』同文館。

玉田美治、2006、『フランス資本主義』桜井書店。

塚本健、1964、『ナチス経済：成立の歴史と論理』東京大学出版会。

土井修、1999、『米国資本のラテンアメリカ進出（一八九七～一九三二年）』御茶の水書房。

戸原四郎、1960、『ドイツ金融資本の成立過程』東京大学出版会。

戸原四郎、2006、『ドイツ資本主義：戦間期の研究』桜井書店。

戸原四郎、2006、『ドイツ資本主義』桜井書店。

中村泰治、2005、『恐慌と不況』御茶ノ水書房。

中山弘正、2003、『現代の世界経済』岩波書店。

西村閑也、1980、『国際金本位制とロンドン金融市場』法政大学出版局。

馬場宏二、1986、『富裕化と金融資本』ミネルヴァ書房。

馬場宏二、2005『もう一つの経済学 批判と好奇心』御茶の水書房。

村上泰亮、1992、『反古典の政治経済学 上下』中央公論社。

百瀬宏、1988、『小国一歴史に見る理念と現実』岩波書店。

湯沢威編、1996、『イギリス経済史』有斐閣。

## <参考文献>

Deutsche Bundesbank *Monthly Report*.

Deutsche Bundesbank *International Capital Links*.

England Bank *Monthly Report*.

U.K. HM Treasury, *UK Membership of the Single Currency: An assessment of the five tests* (HM Treasury, Cm5776, 2003)

Department of Commerce, U.S. *Survey of Current Business*.

Karl Polanyi, *Great Transformation*, 1957.

Harold James, *The End of Globalization*, Harvard University,

2001.

Nicolas Crafts and Gianni Toniolo, eds. *Economic Growth in Europe since 1945*, Cambridge U.P. 1996.

Oliver de Bandt, Heinz Hermann, Giuseppe Parigi eds., *Convergence or Divergence in Europe? : Growth and Business Cycles in France and Germany and Italy* (Springer, 2006)

Deutsche Bundesbank *Monthly Report*.

Deutsche Bundesbank *International Capital Links*.

England Bank *Monthly Report*.

Department of Commerce, U.S. *Survey of Current Business*.

Anderson J.(1999) *German Unification and the Union of Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.

Barbour, P. ed.(1996) *The European Union Handbook*, Fitzroy Dearborn Publishers, Chicago.

Barrell, R. and Pain, N. (1999) *Innovation, Investment and the Diffusion of Technology in Europe*, Cambridge University Press, Cambridge.

Bhagwati, Jagdish, *In Defense of Globalization*, (Oxford University Press.)

Bishop, M. and Kay, J.(1993) *European Mergers and Merger Policy*, Oxford U. P. , Oxford.

Bloomfield Jr., James A.(2002) *Global Markets and National Interests: The new geopolitics of energy, capital and formation*, The CSIS Press, Washington.

Buckley, P. J.(1995) *Foreign Direct Investment and Multinational Enterprises*, Macmillan, London.

Burrows, R. & Loader B. ed. (1994) *Towards a Post-Fordist Welfare State?* London, Routledge.

Burton, F., Yamin, M. and Young, S.(1996) *International Business and Europe in Transition*, Macmillan, London.

Buxton, T., Chapman, P. and Temple, P.(1994) *Britain's Economic Performance*, Routledge, London.

Cadot, O. Gabel, H.L. Story J. and Webber, D.(1996) *European Casebook on industrial and Trade Policy*, Prentice Hall, London.

Chisholm, M.(1995) *Britain on the edge of Europe*, Routledge, London.

Cochrane, A. & Clarke J.ed.(1993) *Comparing Welfare States: Britain in International Context*, The Open University, Sage Publications.

Cool, K., Neven, D.J. and Walter, I. (1992) *European Industrial Restructuring in the 1990s*, Macmillan, London.

Crawford, M. (1993) *One Money for Europe?*, Macmillan, London.

Crompton, Rosemary (1998) *Class and Stratification*, 2nd ed. Cambridge, Polity Press.

Curtis, M. (1995) *The Ambiguities of Power*, London, Zed Books.

Dent, C.M.(1997) *The European Economy: The Global Context*, Routledge, London.

Dicker, P. (1998) *Global Shift: Transforming the World Economy, Third Edition*, London, Paul Chapman Publishing.



- Dobson, A.P. (1995) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Routledge.
- Doremus, P.N., Keller, W.M., Pauly, L.W. and Reich, S. (1998) *The Myth of the Global Corporation*, Princeton Univ. Press.
- Dunnig, J.H. ed. (1997) *Governments, Globalization, and International Business*, Oxford University Press, Oxford.
- Dunning, J. H. (1993) *Multinational Enterprise and the Global Economy*, Addison-Wesley, Wokingham.
- Esping-Andersen, Gosta (1990) *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Cambridge, Polity Press.
- European Commission (1998) *The Competitiveness of European Industry 1998 Report*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *Panorama, 1998*, Luxembourg.
- Felstead, A. and Jewson, N. (1999) *Global Trends in Flexible Labour*, Macmillan, London.
- Friedman, T.L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*.
- Fynes, B. and Ennis, S. (1997) *Competing from the Periphery: Core Issues in International Business*, The Dryden Press, London.
- George V. & Wilding P. (1999) *British Society and Social Welfare*, London, Macmillan.
- George, S. (1998) *An Awkward Partner: Britain in the European Community, Third ed.* Oxford University Press.
- Gilpin, R. (2000) *The Challenge of Global Capitalism: The world economy in the 21<sup>st</sup> century*, Princeton University Press.
- Goodman, A., Johnson, P. & Webb, S. (1997) *Inequality in the UK*, Oxford Univ. Press.
- Grauwe, P.de (1992) *The Economics of Monetary Integration*, Oxford U. P., Oxford.
- Hardt, M. & Negri, A. (2000) *Empire*, Harvard University Press.
- Held, D., McGrew, A. Goldblatt, D. & Perraton, J. (1999) *Global Transformations: Politics Economics and Culture*.
- Hertz, Noreena (2001) *The Silent Takeover: Global Capitalism and the Death of Democracy*, The Free Press, NY.
- Hobsbawm, E.J. (1990) *Nations and Nationalism since 1970*, Cambridge University Press.
- Hutton, Will (1996) *The State We're In*, London, Vintage.
- INSEE (1997) *Tableaux de l'Économie Française 21<sup>e</sup> édition*.
- Joint, P, Courbon, J.P., Pauline, M. et Viau, J.-C. (1992) *La Géographie de l'Europe des 12*, Nathan, Paris.
- Joseph Rowntree Foundation (1995) *Inquiry into Income and Wealth*, Vol.1, York, Joseph Rowntree Foundation.
- Kahler, M. (1998) *Capital Flows and Financial Crisis*, Manchester Univ. Press.
- Keasey, K., Thompson, S. and Wright, M. eds. (1997) *Corporate Governance*, Oxford Univ. Press.
- Kenen, P. B. (1995) *Economic and Monetary Union in Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.
- Krugman, P. (1999) *The Return of Depression Economics*, New York, W.W. Norton & Company.
- Marais, Hein (1998) *South Africa: Limits to Change: The Political Economy of Transformation*, UCT Press (Pty) Ltd.
- Milner, H. (1989) *Sweden: Social Democracy in Practice*, Oxford University Press.
- Nye Jr., J. S. (2002) *The Paradox of American Power: Why the World's only superpower can't go it alone*, Oxford University Press.
- O'Connor, J., Orloff, A. H. & Shaver, S. (1999) *States, Markets, Families: Gender Liberalism and Social Policy in Australia, Canada, Great Britain and the United States*, Cambridge University Press.
- Oppenheim, C. & Harker, L. (1996) *Poverty: the facts*, London, Child Poverty Action Group.
- Ovendale, R. (1998) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Macmillan.
- Palast, G. (2002) *The Best Democracy Money Can Buy: An investigative Reporter Exposes the Truth about Globalization, Corporate Cons and High Finance Fraudsters*, Pluto Press, London.
- Phillips, K. (2002) *Wealth and Democracy: A Political History of the American Rich*, Broadwaay Books.
- Pierson, C. (1998) *Beyond the Welfare State*, 2nd ed., Cambridge, Polity Press.
- Reich, R.B. (1991) *The Works of Nations: preparing Ourselves for 21st-Century Capitalism*.
- Sassen, S. (1998) *Globalization and Its Discontents*, New York, The New Press.
- Standing, G. (1999) *Global Labour Flexibility*, Macmillan, London.
- Tindale, S. (1996) *The State and the Nations*, London, IPP.
- UNCTAD (1996) *Transnational Corporations and World Development*, ITP, London.
- Wallace, C. D. and Kline, J. M. (1992) *EC 92 and Changing Global Investment Patterns*, Centre for Strategic and International Studies, Washington DC.
- Yergin, D. & Stanislaw, J. 1998, *The Commanding Heights: The Battle for the World economy*, A Touchstone Books, N.Y..
- Anderson J. (1999) *German Unification and the Union of Europe*, Cambridge U. P., Cambridge.
- Barbour, P. ed. (1996) *The European Union Handbook*, Fitzroy Dearborn Publishers, Chicago.
- Barrell, R. and Pain, N. (1999) *Innovation, Investment and the Diffusion of Technology in Europe*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Bhagwati, Jagdish, *In Defense of Globalization*, (Oxford

- University Press.) ジャグディッシュ・バグワティ著、鈴木主悦・桃井緑美子訳『グローバリゼーションを擁護する』日本経済新聞社。
- Bishop, M. and Kay, J. (1993) *European Mergers and Merger Policy*, Oxford U. P., Oxford.
- Bloomfield Jr., James A. (2002) *Global Markets and National Interests: The new geopolitics of energy, capital and formation*, The CSIS Press, Washington.
- Buckley, P. J. (1995) *Foreign Direct Investment and Multinational Enterprises*, Macmillan, London.
- Burrows, R. & Loader B. ed. (1994) *Towards a Post-Fordist Welfare State?* London, Routledge.
- Burton, F., Yamin, M. and Young, S. (1996) *International Business and Europe in Transition*, Macmillan, London.
- Buxton, T., Chapman, P. and Temple, P. (1994) *Britain's Economic Performance*, Routledge, London.
- Cadot, O. Gabel, H.L. Story J. and Webber, D. (1996) *European Casebook on industrial and Trade Policy*, Prentice Hall, London.
- Chisholm, M. (1995) *Britain on the edge of Europe*, Routledge, London.
- Cochrane, A. & Clarke J. ed. (1993) *Comparing Welfare States: Britain in International Context*, The Open University, Sage Publications.
- Cool, K., Neven, D.J. and Walter, I. (1992) *European Industrial Restructuring in the 1990s*, Macmillan, London.
- Crawford, M. (1993) *One Money for Europe?*, Macmillan, London.
- Crompton, Rosemary (1998) *Class and Stratification*, 2nd ed. Cambridge, Polity Press.
- Curtis, M. (1995) *The Ambiguities of Power*, London, Zed Books.
- Dent, C.M. (1997) *The European Economy: The Global Context*, Routledge, London.
- Dicker, P. (1998) *Global Shift: Transforming the World Economy, Third Edition*, London, Paul Chapman Publishing.
- Dobson, A.P. (1995) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Routledge.
- Doremus, P.N., Keller, W. M., Pauly, L.W. and Reich, S. (1998) *The Myth of the Global Corporation*, Princeton Univ. Press.
- Dunnig, J. H. ed. (1997) *Governments, Globalization, and International Business*, Oxford University Press, Oxford.
- Dunning, J. H. (1993) *Multinational Enterprise and the Global Economy*, Addison-Wesley, Wokingham.
- Esping-Andersen, Gosta (1990) *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Cambridge, Polity Press.
- European Commission (1998) *The Competitiveness of European Industry 1998 Report*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *Panorama, 1998*, Luxembourg.
- Felstead, A. and Jewson, N. (1999) *Global Trends in Flexible Labour*, Macmillan, London.
- Frank, A.G. (1998) *ReORIENT: Global Economy in the Asian Age*, The Regents of the University of California, 山下範之訳『リオリエント アジア時代のグローバル・エコノミー』藤原書店。
- Friedman, T. L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*. 伏見威蕃訳『フラット化する世界 経済の大転換と人間の未来 上下』日本経済新聞社。
- Fynes, B. and Ennis, S. (1997) *Competing from the Periphery: Core Issues in International Business*, The Dryden Press, London.
- George V. & Wilding P. (1999) *British Society and Social Welfare*, London, Macmillan.
- George, S. (1998) *An Awkward Partner: Britain in the European Community*, 3rd ed. Oxford University Press.
- Gilpin, R. (2000) *The Challenge of Global Capitalism: The world economy in the 21st century*, Princeton University Press, 古城佳子訳『グローバル資本主義 危機か繁栄か』東洋経済新報社。
- Goodman, A., Johnson, P. & Webb, S. (1997) *Inequality in the UK*, Oxford Univ. Press.
- Grauwe, P. de (1992) *The Economics of Monetary Integration*, Oxford U.P., Oxford.
- Hardt, M. & Negri, A. (2000) *Empire*, Harvard University Press.
- Held, D., McGrew, A. Goldblatt, D. & Perraton, J. (1999) *Global Transformations: Politics Economics and Culture*. 古城利明・白井久和・滝田賢治・星野智訳『グローバル・トランスフォーメーションズ 政治・経済・文化』中央大学出版部。
- Hertz, Noreena (2001) *The Silent Takeover: Global Capitalism and the Death of Democracy*, The Free Press, NY.
- Hobsbawm, E.J. (1990) *Nations and Nationalism since 1970*, Cambridge University Press.
- Hutton, Will (1996) *The State We're In*, London, Vintage.
- INSEE (1997) *Tableaux de l'Économie Française 21e édition*.
- James, H. (2001) *The End of Globalization: Lessons from Great Depression*, Harvard University Press, 高遠裕子訳『グローバリゼーションの終焉』日本経済新聞社。
- Joint, P, Courbon, J.P., Pauline, M. et Viau, J.-C. (1992) *La Géographie de l'Europe des 12*, Nathan, Paris.
- Joseph Rowntree Foundation (1995) *Inquiry into Income and Wealth, Vol.1*, York, Joseph Rowntree Foundation.
- Kahler, M. (1998) *Capital Flows and Financial Crisis*, Manchester Univ. Press.
- Keasey, K., Thompson, S. and Wright, M. eds. (1997) *Corporate Governance*, Oxford Univ. Press.
- Kenen, P.B. (1995) *Economic and Monetary Union in Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.

- Krugman, P. (1999) *The Return of Depression Economics*, New York, W.W. Norton & Company.
- Marais, Hein (1998) *South Africa: Limits to Change: The Political Economy of Transformation*, UCT Press (Pty) Ltd.
- Milner, H. (1989) *Sweden: Social Democracy in Practice*, Oxford University Press.
- Nye Jr., J.S. (2002) *The Paradox of American Power: Why the World's only superpower can't go it alone*, Oxford University Press.
- O'Connor, J., Orloff, A. H. & Shaver, S. (1999) *States, Markets, Families: Gender Liberalism and Social Policy in Australia, Canada, Great Britain and the United States*, Cambridge University Press.
- Oppenheim, C. & Harker, L. (1996) *Poverty: the facts*, London, Child Poverty Action Group.
- Ovendale, R. (1998) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Macmillan.
- Palast, G. (2002) *The Best Democracy Money Can Buy: An investigative Reporter Exposes the Truth about Globalization, Corporate Cons and High Finance Fraudsters*, Pluto Press, London.
- Phillips, K. (2002) *Wealth and Democracy: A Political History of the American Rich*, Broadway Books.
- Pierson, C. (1998) *Beyond the Welfare State*, 2nd ed., Cambridge, Polity Press.
- Reich, R.B. (1991) *The Works of Nations: preparing Ourselves for 21st-Century Capitalism*. 中谷巖訳『ザ・ワークス・オブ・ネーションズ 21世紀資本主義のイメージ』ダイヤモンド社。
- Sassen, S. (1998) *Globalization and Its Discontents*, New York, The New Press.
- Standing, G. (1999) *Global Labour Flexibility*, Macmillan, London.
- Stiglitz, J. E. (2002) *Globalization and Its Discontents*, New York, W.W.Norton & Company 鈴木主悦訳『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店。
- Tindale, S. (1996) *The State and the Nations*, London, IPP.
- Toynbee, P. (2003) *Hard Work*. 椋田直子訳『ハードワーク 低賃金で働くということ』東洋経済新報社。
- UNCTAD (1996) *Transnational Corporations and World Development*, ITP, London.
- Wallace, C. D. and Kline, J. M. (1992) *EC 92 and Changing Global Investment Patterns*. Centre for Strategic and International Studies, Washington DC.
- Yergin, D. & Stanislaw, J. 1998, *The Commanding Heights: The Battle for the World economy*, A Touchstone Books, N.Y.. 山岡洋一訳『市場対国家』。